

# 卒業式 式辞

令和3年3月19日  
大阪市立敷津小学校

## 眠る山 声と目が合い 笑い出す

第68期生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。この6年間本当によくがんばり、無事卒業の日を迎えることができましたことを、心からお祝い申しあげます。

特に最後の1年間は大変な1年間だったと思います。約3ヶ月もの間、学校がお休みになる前代未聞の出来事でスタート、そして6月1日から学校が再開されたのですが、校長先生は初めて入ってくる1年生も心配でしたが、皆さん6年生のことも、とても心配をしていました。

というのも、修学旅行はどうなるのかな、最後の運動会は?などなど小学校生活最後の年に、楽しみにしていた行事やイベントがどうなるのか、考えただけでも不安で一杯になっているんじやないんかなあと思ったからです。

実際今から26年前、この大阪で阪神淡路大震災が起こり、そのときの子どもたちも随分と心が揺らいでいたことを覚えてています。意味も無く泣き出したり、急に怒ったり、大きな災害があると本当に心が不安定になることを目の当たりに見ました。そのときの記憶もあるので、6年生の皆さんはどうかなあと本当に心配をしていました。

しかし、みなさんは校長先生の心配など吹き飛ばすかのように、3ヶ月の遅れを取り戻すべく、肃々と勉学に励むことができました。

しかし、こんどは11月に担任が交代となりました。もし神様がおられるのなら、この6年生に与える試練としては、厳しすぎるのではと、うらんだぐらいです。せめて、この試練でこの子たちが心も体も鍛えられて、大人になって同窓会でも開いたときに、あのときは大変だったねと笑って振り返るよ

うな「艱難汝を玉にする」の諺のようになってほしいと願わざにはいられませんでした。

しかし、皆さんの最近の様子、土曜授業や卒業遠足でのがんばりをみていくと、すでに「玉」として輝きだしているのではないでしょうか。

もちろん、今まで全くなにも無かったとは思いません。小さいざこざや、ケンカなどはあったかと思いますが、それは小学生なら誰しもが起こることです。校長先生が知る限りでは、これほどの災難の1年間であったにも関わらず、本当によくがんばったと、心からほめたいと思いますし、その努力は誇っていいと思います。もう立派に中学生になれると確信しています。

もう一つ、みなさんをほめることができます。それは、挨拶のすばらしさです。校長先生は教員生活31年目なのですが、こんなに良い挨拶をしてくれる子どもたちに出会ったのは初めてです。挨拶の4つの極意、あ=明るくあたたかく　い=いつもいつでも　さ=先に(相手より)　つ=伝える(笑顔を)　なんですが、これができる小学生に出会ったのは本当にはじめてです。校長先生は全国の色々な学校の教室を見てきましたが、私が入ったときに目が合って、会釈されたのはこの敷津小の6年生がはじめてです。

みなさん自身は気づいていないかもしれません、これは本当に珍しいことなのです。ひょっとしたら、これから先、みなさんの周りにいる子は、あまり挨拶をしないかもしれません。しかし、挨拶ができる人間は絶対に損はしません。挨拶をする良い習慣は、ぜひこれからも続けてほしいなあと思います。

さて、皆さんの卒業を祝して2つの言葉を贈りたいと思います。

1つは、「夢をあきらめない」という言葉です。人生って、案外自分が望んだとおりにいくものです。ユーチューバーになりたい、ネイリストになりたい、パティシエになりたい、皆さんにはいろんな夢があるかと思います。それをあきらめなければ、必ずかないます。途中でくじけたり、逃げ出しますので、夢が本当に夢で終わってしまいます。みんなの夢を絶対にあきらめないでください。

今まで、この言葉だけで終わることも多かったのですが、皆さんには特別にもう一つ言葉を送ります。それは「最善観」という言葉です。これは、今の状況が一番良いのですよという考えです。

なぜこの言葉を贈るかと申しますと、やはり、このコロナのことがあって校長先生もいろいろ考え方を改めさせられました。これほどの大きな災害を前にすると、あきらめていないのに、夢をかなえることが難しくなると思ったからです。そこで、変にふさぎこんだり、自暴自棄になることなく、今の状態が一番良い、さらに言うと今あなたが生きているだけで幸せなんですよ、と自分で自分に言い聞かせてほしいと思うようになったからです。

これから先、皆さんはひょっとしたらとんでもなく辛いことや、悲しいことに出合うかもしれません。その時に、今が1番良いのだと思ってほしいのです。ひょっとしたら今よりもっと大変なことになっていたかもしれない、もっと最悪になったかもしれないけれど、今自分はここにいる。これに勝る事は無いと思ってほしいのです。

実際こうやって無事卒業式を迎えることができたことをしっかりと胸にきざみ込み、

今生きて存在していることこそが、1番良いと感じてほしいと思います。

先程の夢をあきらめないと少し矛盾するようですが、普段は夢をあきらめないで、いつも前向きに生きてください。そしてとてもない災害などに巻き込まれ、何もかも失いそうになったときは、この言葉「最善観」を思い出してください。

最後になりましたが保護者の皆様方、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。さきほど申しあげましたように、この子たちのがんばりは、そして挨拶のすばらしさはあまり見られないレベルと思います。保護者の皆様方のここまでのご指導の賜物と、深く感謝申しあげます。ぜひ、中学校でもご指導よろしくお願ひします。

最後に、今年1年間激動の学校教育の推進に、多大なるご理解とご協力を賜りましたことを、高いところからではございますが心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて卒業生の皆さん、名残はつきないのですが、そろそろ巣立ちの時ですね。もうあとわずかで中学生です。どんな時でも夢をあきらめず、そして今を大切に生きる最善観を忘れずに、お体に気をつけて中学校生活を楽しんでください。

校長先生を始め敷津小の先生方はいつも皆さんことを応援しています。

令和3年3月19日

大阪市立敷津小学校 校長 原雅史